

# HO YOG

## 教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号  
(本願寺神戸別院内)  
電話 神戸(078)341-5949(代)  
(編集)教区基推委広報部

2002.10 133号



貴重な体験発表をする会員の方々

### 門推十五周年の歩みと現況

門推協が発足した一九八八年当時の会員数は二二

## 門推十五周年記念大会

### 力強い決意表明

兵庫教区門徒推進員連絡協議会は一九八八年(昭和六十二年)に結成され、活動を始めてより今年で丁度十五年目に当たり、去る九月一日(日)に「兵庫教区門徒推進員連絡協議会十五周年記念大会」を神戸別院本堂を会場に開催した。当日は、まだ残暑厳しい中、教区内の遠近各地より百名を超える多数の会員が出席。来賓として山本宣昭教区会議長、森本信行組長、増井浄見基推委副会長、第三連区(近畿ブロック)の五教区の門推協の会長の方々のご出席をいただき、盛大且つ厳粛に行われ

た。まず、会員による献灯・献花より始まり、動行は逝去された門推員の追悼のお勤めでもあった。会員全員で正信偈を誦した。また、教務所長をはじめ来賓の方々の祝辞や激励のお言葉をいただいた。続いて

三名の会員の体験発表があり、「門推推進員と寺のかかわり」「門推推進員の活動」「門推の日に思うこと」と題した貴重な体験発表を聞き、今後の活動の良参考になった。

午後からは釋氏清子先生(阪神西組源光寺)の指導のもと、仏教讃歌「おかげさま」の歌唱練習から始まり、引き続き「健康であり、引き続き」と題し真宗連合学会員の駒沢勝先生の記念講演を拝聴し、進んだ医学や科学の力でもってしても幼い生命を救えなかった空しさから宗教に関心を持つようになった、との内容で大変感銘を受け、会員たちにも好評だった。

最後の閉会式で参加者の総意として

一、「御同朋の社会」実現をめざす基幹運動の先頭に立ちます。

二、全寺院に門推員の登録を、全組に門推協の設置を目標に努力します。

三、力強く決意表明をして記念式典を終えた。

また、大会終了後には会場を別に移し、祝賀会を開き、記念大会とは違った雰囲気の中、会員同士の親睦を深めながらも今後の門推活動を真剣に話し合う場面も見受けられた。

教区だより		10・11・12月	
10月25日	総代会西播ブロック研修会	11月17日	仏婦若婦人の集い記念大会
26日	モダン寺土曜子ども会	22日	寺婦運営委員会
27日	総代会阪神・神戸ブロック研修会	23日	モダン寺土曜子ども会
	総代会東播ブロック研修会	24日	仏社丹波・但馬ブロック研修会
	門推幹事会	27日	別院報恩講(29日まで・赤松弘淳師)
11月2日	第一土曜仏教講座(小笠原正仁師)	12月1日	第4回全門信徒の集い(本山)
	門推の日		門信徒会40周年・門徒推進員20周年記念大会
7日	別院仏婦定例法座(幡多哲也師)	2日	第6回日校・子ども会指導者連続研修会
8日	第5回日校・子ども会指導者連続研修会		豊岡教堂報恩講(3日まで)
	仏婦総連盟若婦中央研修(10日まで)	7日	第一土曜仏教講座(石川了英師)
	真宗保育学会大会(9日まで)		門推の日
9日	仏社幹部一泊研修会(神戸別院にて)	21日	第3連区ビハーク研修会(聞法会館)
10日	仏婦常任委員会・若婦人練習会	25日	報恩講子どもの集い
14日	基推委企画常任委員会		青僧会連続研修会(張偉師)
	基推委常任・同朋講師と部落解放同盟との学習会	31日	別院除夜会
	保育理事会		

### 報恩講の「法」を ごと徒へ

毎年、報恩講にあわせて発行しております「法」シリーズ。今回は谷川弘頭師(神戸湊組高松寺)にご執筆をいただき、作成いたしました。

今回も一部二十円(送料実費)で百部以上の場合には寺号を無料で印刷いたします。是非ともご門徒向けの文書伝道にご活用ください。

### 納骨所(普通区画) 残りわずか

一昨年増設いたしました神戸別院納骨所の普通区画の残数があとわずかとなりました。

普通区画は使用懇志二百三十万円(年次維持費加金一万円)、小型区画は使用懇志八十万円(年次維持費加金五千円)特別壇・小型区画は使用懇志百万円、下段は九十万円(年次維持費加金五千円)となっております。申し込み希望の方はお早めにお問い合わせください。

また、小型区画、特別壇・小型区画は残基数にゆとりがありますので門徒さまへご紹介いただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

### 書籍取扱い始めました

八月からすでにご案内の通り、教務所にて書籍の取扱いを行っております。

主な取扱い書籍は以下の通りです。各種研修会等でご利用ください。

- ◇暮らしの中の浄土真宗
- ◇御同朋の願い―基幹運動入門テキスト―
- ◇御文章 ひらかな版(拝読のために)
- ◇浄土真宗聖典(七祖篇・注釈版・原典版七祖篇・原典版・注釈版)
- ◇新絵本 お釈迦さま・親鸞さま
- ◇真実の道―修行信証講和―
- ◇聖典動行集(小・大)
- ◇聖典セミナー
- ◇御文章・数異抄
- ◇数異抄(現代語版)
- ◇日常動行聖典
- ◇日校せいてん

### 平成十五年版法語カレンダー受付中

毎年、真宗教団連合から発行されております「法語カレンダー」(平成十五年版)を今年も教務所に取り扱います。

今年の法語カレンダーのテーマは「他力―大悲のひかり―」です。お念仏に生きた人たちの法味豊かな言葉とともに、写真家、長野良一氏の「東アジアの中の九州」というテーマで撮られた写真を配したカレンダーです。

価格は一部五百円(送料は実費)です。

ご希望の方はお早めに電話かFAXにてお申し込みください。

また、同時にカレンダーの法語の味わいを石田慶和氏がやさしく綴った「心に響くことば」も取り扱っております。価格は百二十六円です。カレンダーともにお申し込みください。

詳細は、担当日深まで。

### 敬吊

龍本のぶ(淡路組蓮光寺前坊守) 8月14日、89歳で往生

内海 敏子(新宮組心光寺前坊守) 9月26日、76歳で往生

小井田善弘(神姫組明正寺前住職) 10月2日、77歳で往生

森尾 淳真(阪神南組蓮生寺衆徒) 10月3日、30歳で往生

藤岡 成信(播磨東組宗宣寺前住職) 10月7日、76歳で往生

池澤 きよ(播磨中組名称寺前坊守) 10月9日、90歳で往生

猪澤壽也子(阪神西組常宣寺衆徒) 10月9日、79歳で往生

藤本 英明(神戸西組正覚寺衆徒) 10月12日、69歳で往生

花園 澄代(神崎組圓照寺坊守) 10月12日、41歳で往生

# 城崎組結集大会を終えて

城崎組組長 藤澤大紀

四月五日の組会において年内開催を決定し、組相談員をトップに仏壯・仏婦・総代・寺婦を中心に開催日時、会場、講師、イベント、記念品等、大会開催に至るまで幾度となく会議を開催し、次の通り大会開催の基本を決定した。

◇弁当に労力がある午前開催を止め、午後開催とする。

◇組内寺院を知ってもらうため組全寺院紹介ビデオを制作し放映する。◇教化団体の本音の活動報告と将来展望の発表。◇記念講演は但馬ではなかなか招聘できない、そして組の予算内でお願いできる方に依頼する。◇イベントもプロによるものではなく、手作りのものとする。◇記念品はやめ、参加費を安価におさえる。

◇開会式、閉会式の挨拶・動行をやめたり、極力短くし中身の濃いものにする。

当日の八月二十五日は日高町のホテル幸祥を会場に五三九人の参加者を得て、十三時三十分の開会式に始まり、ビデオによる寺院紹介・教化団体の現状報告と将来展望・アトラクション(手話・踊り・和太鼓演奏・

記念講演、講師は結城思閑(松倉悦郎)師・閉会式と約三時間に渡る大会は盛況のうちに終えた。

多くの参加者から「ビデオ上映も記念講演もよかったです」「講師の講演に感動しました」「何よりも会場がすてきでした」などの多くの声がよせられた。

この大会開催で、常に集まるのが難しい坊守たちが何度も集まり、手話・コーラスの練習と親睦を重ねて見事な発表となり今後の寺婦活動に新たな希望が生まれたこと。仏婦のおどり「本願寺音頭」参加のため全体の練習会や各寺での交流の輪が確かに広がったこと等々の顕著な成果が得られた。

教化団体の現状報告と将来展望発表の中で浮き彫りになった課題は「住職の姿勢」ではなかっただろうか。すなわち、「共に生きる」をスローガンにしながら実際は「法を説く側・聞く側」と割り切ってしまうと、悲しみや苦しみや喜びを共有するということの意味での「共に生きる」状況とはなっていないと指摘されていると受け止めていかねばならない。更に私自身、来年の組長交替のための書類整理の中で昭和五十年当時、組長をなさっていた方の組会や研修会などの反省・課題報告記録の中に仏壯・仏婦の事、葬儀の在り方、法名の事、このことなど宗門や組や各寺の抱える苦悩や問題を引きずって、何一つ満足に解決されていない事実が愕然としている。

しかし、また一方世の中



ホテル幸祥にて

## HO日誌

- ◆8月1日 11モダン寺院天講座、講師は1日・山西昭義師、2日・水杉悟史師、3日・藤田真哲師/第一土曜弘教講座、講師は貴島信行師/門推の日◆6日 保育理事◆15日 別院孟蘭盆会◆16日 ビハラ納涼大会◆20日 門推幹事会◆21日 少年連盟サマースクール(23日まで)◆22日 企画常任委員会◆24日 ビハラふじの里夏祭り◆25日 城崎組御同朋結集大会◆26日 解放同盟兵庫・岡山県連との学習会/布教団第3ブロック青年布教使研修会(27日まで)◆27日 連研推進委員会◆28日 団参、大阪教区豊島南組明誓寺/仏婦・寺婦交流会/仏婦委員長会/第5回勸導指導所講習会/青僧会会員交流会◆29日 第2回日校子ども会指導者連統研修会/サマースクール反省会◆30日 大18選挙区選挙管理委員会◆31日 東西真宗保育研修会◆9月1日 門推15周年記念大会◆4日 都市開教部◆5日 教区参与会「蓮華会」総会・研修会◆6日 再会実行委員会/青僧会役員会◆7日 門推の日/第一土曜弘教講座、講師は本多即應師/ビハラ全国集
- 会(8日まで)「あなたに伝えてもらいたいんです浄土真宗を」のテーマで神戸湊組御同朋結集大会を組内の西幸寺で開催、講師は藤栄行信師◆8日 仏壯姫路・西播ブロック研修会/生涯開法に励む輪を広げるために」のテーマで播磨中組御同朋結集大会を組内の善称寺で、講師は藤栄行信師◆10日 団参、佐賀教区武雄組正法寺念仏奉仕団◆11日 近同推寺婦研修会(12日まで)◆13日 第3回日校・子ども会指導者連統研修会◆16日 「生活によるこびを社会に念仏を」のテーマで水西組御同朋結集大会を組内の正福寺で、講師は西池哲俊師◆18日 第22回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要・教区議員研修会(19日まで)◆20日 前門様100ヶ日法要/保育主任代表者会◆22日 別院秋季彼岸会、講師は奈良教区境山正仁師(24日まで)◆25日 教区勸導指導所/愛生園追悼法要◆26日 青僧会連統研修会、講師は駒沢勝師◆28日 「できることから始めよう」のテーマで姫路中組御同朋結集大会を組内の法性寺で、講師は谷川弘頭師/モダン寺土曜子ども会◆29日 仏壯理事会◆30日 護持口数調整委員会設置についての協議会

## 非戦・平和への新たな誓い

### 第二十二回千鳥ヶ淵戦没者追悼法要・教区会議員研修会

九月十八日、東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑に全国から二千六百名の僧侶・門信徒が集い、「第二十二回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」がご門主ご臨席のもと厳修された。兵庫教区から教区会議員研修会を兼ねた参拝団七十九名が参拝した。

先立って前日、築地別院で全国教区会議長会が開催され、兵庫教区教区会議長の山本宣昭さんが出席され、引き続き教区の参拝団に参加された。

法要に先立ち「つどい」が開催され、兵庫教区を代表して寺族婦人会連盟委員長長杉本照美さんが献花された。記念講演では本願寺派布教使の藤井邦磨師が講演され、引き続き朗読が行われ、宗門学校を代表し、崇徳学園中学校の宗像誠さん、京都女子高等学校の山口慈子さん二名の非戦・平和への切なる願いを訴えた朗読が参拝者の心を打った。

「追悼法要」は武野総長を導師に、全国の教務所長が結衆として出勤し、教区

からの代表として森本信行組長会長が列衆として出勤した。

ご門主ご親香のあと正信偈を参拝者全員で声高らかにお勤めし、来賓参拝者の焼香に続き、参拝者それぞれ戦争犠牲者を偲び焼香をした。読経後、武野総長より挨拶があり「浄土真宗本願寺派がこの法要をお勤めするようになりましたのは一九八一(昭和五十六)年からであり、国立の施設において法要をお勤めいたします主旨は、単に宗門の中の戦没者の方々だけでなく、広くすべての戦争犠牲者を追悼する、という願いを明らかにするためであります。」

と述べられ、参拝者一同は阿弥陀如来のお心をいただき、「非戦・平和」への誓いを新たにし、命の尊さを訴え続けていくことの大切さを再確認する意義深い法要となった。

法要後、教区参拝団は茨城県の大洗シーサイドホテルに会場を移し、懇親会を開き、親睦を深めた。翌十九日は、お朝事で参加者の中から西池哲俊さんより前日の法要について法話をいただいた。朝食後、親鸞聖人が「教行信証」をお書きになったとされる稲田の西念寺と板敷山弁円ゆかりの大覚寺に参拝し、沿革を聞き、参拝者は親鸞聖人の在りしを思い浮かべることができ、みどり多い参拝研修となった。

## サマースクールに大喜び

### みなで作った鉄人カレー

八月二十一日から二十三日に第三十九回少年連盟サマースクールを神戸別院を会場に開催しました。

この度は、教区参与会「蓮華会」に協賛いただき、仏婦連盟の方々のお手伝いと、教区内有志スタッフで「自然を見つめて、いのちを感じよう」のテーマのもとに参加三十一名の子どもの歓声と共に、夏の一時を過ごしました。

今回のテーマは、現代の殺伐とした、命を軽んじた世の中に生きる子どもたち、人間が作った物ばかりのように思える神戸という都会を見て、そこに自然はあるのか。という問いかけに、探せば人工物にも自然が芽吹いていることを知ってもらい、その命を見つめることによって、そこに命のすばらしさ・尊さを感じてもらいたい思いで掲げました。

子どもたちは、別院の周りをウォークラリーし、自然を見つけ、こんなところにも小さな命があった驚きと喜びがありました。また、神戸港から船に乗り、海から神戸の町を眺め、ある子どもが「神戸は都会でビルばかりだけど、後ろの山は緑の木で一杯。いつまであんなかな……残しておきたいなあ」とじっと見つめながら言っていたのが印象的でした。

いろんなゲームなどをしましたが、やはり一番子どもたちの目が輝いていたのは「みんなで作ろう鉄人カレー」でした。班ごとに材料費をもらい献立から買い物、料理、盛り付けと各班独自のアイデアで作れ出すカレーで作りながら協力態度、味などを競うもので、面白かったのは、カレーのルーを作るのに、はじめに炒めるのは野菜から、それとも肉から、いやはや肉・野菜一緒と、班によって違った点です。それぞれ聞いてみると、「こうするのが美味いのだ!」とどの班も自信たっぷりです。

教務所長にも審査員として食べてもらいみんな美味しかったということでした。



また、オリエンタルホテルでのバイキングでは、少し時間が足りなかったようですが、初めての経験で美味しかったと好評でした。

神戸でしかできないことをするサマースクールでした。今後とも楽しいサマースクールを考えますので、多くの子どもたちの参加をお待ちしています。

最後になりましたが、教区参与会「蓮華会」、仏婦役員の方々、有志スタッフの皆様の協力のもとに無事サマースクールが開催できたこと、感謝いたします。



神戸中組真覺寺住職 鍋島俊樹氏作